

463 高等文官予備試験問題と筆記試験期日・奥田学長授爵・

三井家の寄附

〔『法学新報』第27卷8（311）号 大正6年8月20日〕

○高等文官予備試験問題と筆記試験期日 去る七月一日施行せられたる文官高等試験予備試験論文問題は（一）行政裁判権限拡張の可否を論ず、（二）請願を論ず、（三）独占価格を論ず、

(四) 死因贈与と遺贈との異動を論ず、(五) 国際仲裁裁判を論ず、(六) 自由刑を論ずにして試験志願者中三百十人は先般予備試験合格者と決定したるを以て更に来る九月一日より同五日に至る迄内幸町衆議院内に於て本試験の筆記試験を行ひ尚ほ十月初旬を以て口述試験を開始することに決定せりと

○奥田学長授爵 中央大学長奥田博士は去る十四日勲功に依り男爵を授けられたるか当日波多野宮相は御沙汰を奉し午前十時宮中南溜間に於て爵記奉授式を行ひ仙石事務官、渡邊菊池両式武官参列の上爵記を奉授し奥田博士病中にて伊東枢密顧問官代りて之を拝受したり今博士の閲歴を示さんに明治十七年東京大学法学部卒業の後農商務大臣秘書官、内閣官報局長、内閣書記官長、衆議院書記官長、拓殖務次官、農商務次官、文部次官、法制局長官、宮中顧問官、宮内省御用掛、文部大臣兼司法大臣等の官歴あり其間衆議院議員たること三回に及び且つ中央大学の経営に従事すること三十年の久しきに亘り多数の俊才を輩出せしめ又現に東京市長として市政の爲めに尽瘁しつつあり尚ほ故伊藤公時代より帝室制度調査会に在りて今日の皇室令に関係し今尚ほ同制度審査に従事し司法省法律取調委員及同会長として多年法律の制定に尽瘁せられ而して明治四十五年貴族院議員に勅選せられたることは人の知る所なり

○三井家の寄附 三井家にては中央大学の事業に深甚なる同情を表し今回同家総代三井八郎右衛門男より同大学維持基金の内へ金五万円を寄附せられたり